Hopeful で Sustainable な社会を作るために。

2011.5.14 鏑木孝昭

持続可能な生活様式をめざす地域コミュニティの構築と連携の推進事業

［ＨＯＳＰ！のこれまで］

ＨＯＳＰ！(HOpeful and Sustainable society Projects：持続可能なコミュニティを本気で作る大人たちの会)は２００９年２月に発足し、いくつかの事業を行ってきました。ベースとなる事業は、いわゆる「場づくり」の事業であり、持続可能な社会つくりに取り組んでいる事業者・団体との意見交換会を、できるだけ事業・活動の現場で行ない、みんなで学び、かつ触発しあって行動をより活発にしたり、新しい行動を生み出す機会とする「ＨＯＳＰ！　旅塾」などでした。これにより持続可能な社会つくりをめざす多くの地域の活動が加速することを目指していました。ＨＯＳＰ！本体でも、自ら持続可能な地域づくりを事業として行いたいと思っておりましたが、これはまだ具体化できていません。目指している姿は、多くの地域での活動が活発になり、地域から日本が変わっていくことでした。そのために、持続可能な生活様式で、経済的にも自立し、人々が幸せに暮らす地域コミュニティの実例を早く作りたいと考えていました。人は見たものしか信じませんので、早く望ましい未来の生活の「絵姿」を実際に作り、多くの人や団体の意識を変えていく一助にしたいと思っていました。

［東日本大震災を受けて］

未曾有の災害を経験して、人々の意識は変わってきました。多くの人が「備えが必要である」と考えはじめました。「備え」という要素が加わると、これまで自然は豊かだが経済的には価値が小さいと思われていた土地の価値は変わります。被災回避地として、また回避時にエネルギーや食糧の自給の可能性がある土地として価値が向上します。望ましい未来の絵姿を示すひとつかふたつの地域コミュニティを目指すのではなく、今後来るであろう災害に備えるためにも、エネルギーと食糧の自給ができる被災回避地を多くの地域に作っていくことを目指すべきと考えを変えるべきです。

［具体的に何をするのか？］

この取組にコミットする人々によって、自然が被災回避地に多人数で共有する別荘を作り、エネルギーと食糧の自給を目指した生活様式を追求していきます。別荘だけでは生活様式を構築するのは難しく、一定人数の定住する人々とのコラボレーションが必要でしょう。定住の可能性としては、営農法人の社宅、高齢者住宅、全寮制の学校などが考えられます。ＩＴ企業のサテライトなども可能性が高いでしょう。ＨＯＳＰ！としてひとつかふたつの候補地を選び、主体的にエネルギーと食糧の自給ができる被災回避地を作ることにチャレ

ンジます。また、これまででおつきあいのある地域コミュニティにこの考えを説明し、エネルギーと食糧の自給ができる被災回避地作りの仲間になっていただくよう努力します。このような被災回避地は単独ではだめなのです。大災害はどこで起こるかわかりません。被災回避地が大きな傷を受ける可能性もあり、その場合別の被災回避地におじゃまることができなければなりません。また、平時からエネルギーと食糧の自給を目指した生活様式を追求することで、人々の生活様式が変わり、被災回避地に定住する人も増えてくるでしょう。多くの地域コミュニティが仲間になって連携して動いていくことで、ある時点で日本全体を変えていく大きな流れになることも期待できます。

［現時点　最初のＨＯＳＰ！取組候補地］
（１）　那須１００年コミュニティ近辺
（２）　千葉　大鷲里山ファームビレッジ
（３）　小田原小竹　湘南希望村
　　等

今回の地震で那須１００年コミュニティの中核施設、ゆいま～る那須は被災しました。放射能の心配もあり、住民の総意で全員が神戸のゆいま～る伊川谷に一時避難しました。「新しいコミュニティで暮らし合うというすごさ、コミュニティの一員であるという意識の高さ、これまでのプロセスを強く強く感じた瞬間でした。」と関係者は語っています。このような連携が多くのコミュニティで広域にできることが、目指す姿だと思っています。

［当面の活動］
有志による検討を開始する。本格的な事業企画のため、ＨＯＳＰ！ファンドを活用も検討する。

以上